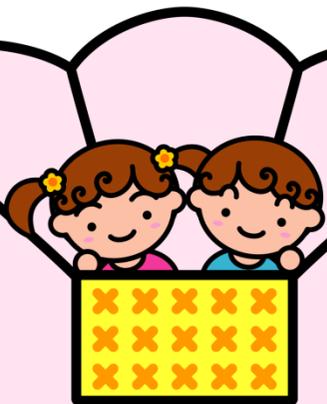


加須市立加須幼稚園

# 生活編



## ピピー！イエローカード！

廊下を全速力で走り抜けていった A さんに向けて  
教師が、



「ピピー！イエローカード！」

A さんは、はっとした表情をして走るのをやめる。



いけないことしちゃった



「大丈夫？けがはなかった？」



「うん。反則だから、ぼくもう  
絶対に廊下を走らないよ！」



「だめ！」と言われると、子供  
自身が否定されているように感じ  
てしまいます。一人一人の

子供にスイッチが入るキーワードを使う  
ことにより、自尊心を傷つけず、正しい  
行為のみを伝えることができます。

〈言葉かけの例〉

- サッカーが好き→「イエローカード！」
- 野球が好き→「アウトー！」
- ゲームが好き→「ミッション〇〇をしよう！」



## 片付けたくない

給食の時間になり、ままごと遊びの片付けをするように言葉をかけたところ…

 「まだ遊びたい!片付けたくないよ!」

 「また明日続きをしようよ!」

 「やだやだ!まだ遊びたい!」

それなら、こんな言葉をかけてみよう…

 「お皿屋さ〜ん。お皿集めをお願いします。」

 「はい!わかりました。」

 「つぎはコップ屋さ〜ん。コップ集めをお願いします。」

 「はい!」



「片付けましょう」と言葉をかけると、「まだ遊びたいのに…」という言葉が返ってくる場合があります。そんな時、「〇〇屋さん」とお願いをすると張り切ってやってくれます。

## カレーライスがよかったのに…

 給食の献立が気に入らず、Aさんが口にした言葉は

 「カレーライスがよかったのに…」

 「そっか。カレーライスが好きなのね。」

 「ここに置いておくから、食べたくになったら食べてね。」

おいしそうに食べている友達の様子を見てAさんは

 「食べたくなくなってきちゃった!」

 「いただきます!」



「そっか。」と受け止めることでAさんの気持ちは満たされました。さらに友達がおいしそうに食べる姿を見て、食べてみようという気持ちになったようです。

## がんばっているね

泥んこ遊びの後の着替えを行っている時のこと…



「もうちょっとでボタンができるのに。」

「むずかしいな。」

一番上のボタンがかけづらそうだな。

こんな時、「頑張って!」と声をかけてしまいがち。けれど…



「がんばっているね。」

「2番目まで、上手にボタンがかけられたね。」



と、声をかけてみる。すると、満面の笑みを浮かべて…

「うん。すごいでしょ。」

「ボタンが顔を出しているから、あともう少しだね。」



ついつい「もっとがんばって」と励ましの言葉をかけてしまいがちです。「がんばっているね」のように、すでに出来ていること、今やっていることを認める言葉かけが自信のもとになります。

## 思い通りにならなくて…



自分の思い通りにならないことがあり、イライラして物を投げたくなってしまったAさん。

「こんなのいらない! えい!」



物を投げたらいけないことを知らせていかないと…

「そっか。Aさん、思い通りにならないことがあって、がっかりしたんだね。」



「うん。そう。先生あのね…」



Aさんの気持ちはすっかり落ち着いて、その時の気持ちを話してくれました。

「でもね、物を投げたらいけないよ。」



「うん。もう絶対に投げない。」



「そんなことをしてはいけません。」と、感情で言葉を返すよりも、思いを受け止めていくことで、気持ちを落ち着かせることができました。感情のコントロールを手伝うことがサポートにつながります。



## 他者との関係編



### 縄跳びが跳べなくて

Aさん、なんだか元気がないみたい。どうしたのかな。



「どうしたの？」



「縄跳びが跳べなくて、Bさんに笑われたの。」



「そう。跳べなくて笑われちゃったの？」

「恥ずかしくて嫌だったのね。」



「うん。」



「そっかあ。でも先生は、Aさんならきっと

できると思うな。二人で練習してみる？」



子供の話を最後まで聞き、そのあとで、「あなたなら大丈夫」と励ましてあげましょう。少しでも上達したことを褒めて自信をもたせていきましょう。

## 他者との関係②

### ちゃんと気づいているよ！

友達に、おもちゃを取られたり、順番を抜かされたりしてもあまり抗議をしないAさんに、こんな言葉をかけてみました。

- 
- 「嫌だなんて思っても、我慢したんだね。」
- 
- 「うん。」
- 
- 「ちゃんと気づいているよ。」
- 
- 「うん。」
- 
- 「嫌なことをされたら、やめてって言おうね。」

その後、教師と一緒に友達に「やめて」ということができたAさん。

- 
- 「今度は、一人で言ってみるね。」



「ちゃんと気づいているよ」というメッセージを送ることは、自分の気持ちを表現することへの足がかりになります。その上で相手に自分の気持ちを伝えていく方法を具体的に言葉で知らせていくといいですね。

## 他者との関係③

### 自信が育つ言葉

- 
- 「ねえ、先生」
- 
- 「なあに。」
- 
- 「〇〇くんと〇〇して遊んで楽しかった。明日また一緒に遊ぼうっと。」
- 
- 「わかった。明日も今日の続きをして遊ぼうね。」
- 
- 「明日は〇〇ちゃんも誘っちゃおうかな!」
- 
- 「いいよ。先生も仲間に入れて。」
- 
- 「うん!」



「なあに」は、関心  
「わかった」は、理解  
「いいよ」は、受容の心を子供に伝えます。  
こんな言葉かけを心がけていくと、グングン自分に自信をつけていきます。

## 他者との関係④

### 力の加減ってむずかしい…

鬼ごっこをして遊んでいるときのこと、AさんをつかまえようとしたBさんが、勢いよくAさんのもとに走っていき、「ドーン」とぶつかる。



「痛い!そんなに強くおさないで。」



「強くおしてないもん!」

「鬼ごっこをしていただけなのに…」という思いのBさんに、どのように言葉をかけたらいいかな

「ドーン!じゃなくて、チョンにしよう!」



実際にBさんの手のひらに指でチョンとタッチし、力の加減を知らせる。

「Aさん、とっても痛かったみたい。」

「チョンかあ。わかった!」



「Aさん、さっきはごめんね。今度から、チョンにするね。」



音のニュアンスを使って、力の加減を伝えていくと理解しやすいようです。また、「チョン」というのは、これくらいの力だと分かるように手のひらなどでタッチの加減を示していくといいですね。

## 他者との関係⑤

### 心の食べ物



「〇〇さん、お手伝いをしてくれてありがとう。とっても助かるよ。お部屋がきれいになって、気持ちがいいね。」



先生にたくさん褒めてもらってうれしいな。



「先生、いつもありがとう。」

「どうして?」



「…言いたくなっちゃったの。」



「うれしいな」「楽しいな」「気持ちいいな」「ほっとするね」など、プラスの言葉をかけていくと、子供の心に十分に栄養が行き渡ります。思いがけず、こちらも「ありがとう」を言われて、うれしかったです。

## 興味・関心編



本当にカブトムシになるの？

### 色水の变身！

赤いオシロイバナで色水遊びをした次の日のこと。



「今日も色水で遊ぼうっと！昨日作っておいた色水を見に行こう」

「わー！麦茶になっている！」

麦茶に例えるなんて感性が豊かなのね。



「よく気がついたわね！昨日まではピンク色だったね。どうしてだろうね。」

少し考えてから、



「明日になったらまた違う色に変身しているかな。違う色のお花で試してみよう。混ぜたらどんな色になるかな。」



子供の気づきを学びのチャンスとし、興味や関心を広げていきます。子供たちは、不思議なことに会う度に、知的好奇心が刺激され、学びの意欲につながっていきます。

## 興味・関心②

### プールサイドで

プールの水に太陽の光が反射して、光っているのをプールサイドから見た A さん。



「プールがキラキラしているね!」



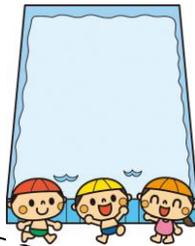
「本当だ。きれいだね!」



「うん。電気がついているみたい!」



光の反射を電気に例えるなんて…大人にはない発想だな。



子供の感性はとても豊かです。感じたこと、考えたことをそのまま表現しようとします。大人が見過ごしてしまうようなことでも興味津々…。「本当だね。」「きれいだね。」など、子供の気づきを親子で共有することで、興味関心はさらに広がっていきます。



## 興味・関心③

### 真剣勝負

サッカーに夢中になって遊んでいるときのこと。



「先生チームをやっつけるぞ!」



「先生だって負けないよ!」

「よし、勝負だ!!!」



教師も幼児に、真剣勝負を挑む。

「先生、結構強いな!」



「そうですね!」



子供と一緒に夢中になって遊ぶことで、楽しさを共感し合うことができます。

子供は大人が、時には手加減せずに夢中になって遊んでくれることが大好きです。



## 興味・関心④

### ダンゴ虫の飼育を通して

ダンゴムシに興味があり、飼育をしてみたいと言ってきた A さん。観察ケースで飼育をすることになる。



「ダンゴムシはどんなおうちがいいのかな?何を食べるのかな…」



「そうね。図鑑で調べてみようか。」

図鑑や、本を見ながらダンゴムシが住みやすい環境を整える。



「枯葉を食べるんだね。」

「森のおそうじやさんなんだって」  
他の幼児もダンゴムシに関心を示すようになっていく。



「あっ!赤ちゃんだ!白くて小さい!」

「脱皮のからを見つけた!」

飼育を通して、脱皮の仕方などダンゴムシの生態についての知識を得ることができた。



実際に目で見て、触って確かめてといった実体験が、幼児の興味関心を引き出していました。「どうしてだろう」「不思議だな」と思ったことを確かめようと、夢中になって調べる子供たちの目はキラキラと輝いていました。



## 興味・関心⑤

### ジェットコースターをつくろう

裸足になって砂遊びをしているときのこと。



「水を流して、ジェットコースターにするんだ!」

といや、塩ビ管を使ってジェットコースターのコースをつくっていく。



「よく流れないな…途中で止まっちゃうんだ。」



「本当だ。困ったね。どうしたらいいかな?」

上手く流れるためのヒントを提供したり、幼児と一緒に試したりしていく。何度も試行錯誤をしながら、微妙な高低差をつけなければならないことを体得していく。



目的を達成するために試行錯誤を繰り返すことは、貴重な学びのチャンスです。「できた」「わかった」という体験を重ね、学ぶことの楽しさを知ります。

